

複合災害時の対応は…

早い段階で江戸川区外へ脱出する

最悪の災害が起こると、予想以上に深刻な事態が発生

江戸川区では、最悪の災害が発生した場合を想定した避難シミュレーションを実施しました。シミュレーションには、2012年1月に区民みなさんにご協力いただいた「水害に対する意識調査」の結果から、水災害時に「どこに避難するか？」や「いつ避難するか？」という一人ひとりの意向を反映しています。

深刻な事態とは？…

- ① 約68万人の区民が全員避難しようとする、区内の待避施設（小中学校）はすぐに満員となってしまいます。
- ② 区民が一斉に避難すると、大渋滞が起こり、余計に被害が拡大してしまう恐れがあります。
- ③ 台風が接近してからでは、強風で身動きがとれなくなり、歩くことすらできません。
- ④ 一度水没すると、区内で長時間孤立してしまう恐れがあります。



複合災害時の避難シミュレーションより

移動可能な早いタイミングで区外へ避難することが必要不可欠！

超巨大台風が上陸する前に遅くとも台風上陸1日前

2004年ハリケーン・カトリーナの接近により広域避難するアメリカニューオーリンズの住民 (写真:FEMA)



広域避難



早期の広域避難を実現するために、江戸川区では、周辺区市や都県などの関係機関との協議を進め、区外の安全な避難施設の確保や長距離の避難誘導方法などを具体化していきます。

浸水した区内に取り残された状況を想像してください



2004年ハリケーン・カトリーナの被害で取り残された住民 (写真:FEMA)

多くの人を取り残されれば、救助の手は足りなくなります。ライフラインも止まるため、生活も非常に不便となります。一時的に命の危険を回避したとしても、場合によっては命の危険にさらされてしまいます。

区内に取り残された場合、水の上に取り残された状態で生き延びるための備えが必要不可欠！

台風最接近時

待避施設 (小中学校) に避難したとしても…

江戸川区内の待避施設の収容人数は、68万区民の1/3程度で、全ての避難者を収容できません。

一人では避難することができない、“災害時要援護者のいる世帯”を優先する必要があります。しかし、医療機器が整っているわけではありませんので、救助が来るまで生き延びる備えが必要です。



小中学校への避難

地域防災拠点 に避難したとしても…

大島小松川公園、葛西南部地区、国府台台地の3カ所が指定されています。

雨ざらしの屋外であり、災害時には不便を強いられます。しかし、外部からの支援の拠点となるため、十分なスペースが確保されており、“平屋や二階建て、低層階（1・2階）にお住まいの方”には、避難に有効な場所です。



地域防災拠点に指定されている大島小松川公園(自由の広場)

自宅にろう城 したとしても…

避難渋滞で、逃げ遅れるのを避けるための最終判断となります。

“3階以上にお住まいの方”は、避難者渋滞を避ける方法として、自宅にとどまることも考えられます。しかし、支援の手を期待せず、自宅で生き延びるための備えが必要です。



自宅にとどまった場合のイメージ